円借款

案件概要書

2025 年 2 月 25 日

１．基本情報

(１) 国名：モンゴル国（以下、「モンゴル」という。）

(２) プロジェクトサイト：トゥブ県セルゲレン郡（人口：約 2 千人）

(３) 案件名：チンギスハーン国際空港拡張計画
（Chinggis Khaan International Airport Expansion Project）

(４) 計画の要約：
本計画は、チンギスハーン国際空港の施設拡張により、航空旅客及び貨物輸送の将来的な需要増加に対応することで混雑緩和及び更なる利便性の向上を図り、もって同国の経済発展に寄与することを目的とする。

２．計画の背景と必要性

(１) 本計画を実施する外交的意義

中国とロシアに挟まれた内陸国という地政学的特性をもつモンゴルが、民主主義国家として自立的かつ安定的に成長・発展していくことは、地域の安定と繁栄に資するのみならず、我が国との関係発展にとっても重要である。同国は両隣国とのバランスの取れた外交関係を展開しながら、両隣国に過度に依存することなく、日本を含む「第三の隣国」との関係を発展させることを外交の基本方針としている。

チンギスハーン国際空港（以下、「新空港」という。）は同国が第三の隣国を含めた中ロ以外の国々と繋がるための重要な結節点になっている。

新空港は本邦技術を活用し建設されたことに加え、運営も同国政府とのコンセッション契約により日本企業 4 社と同国政府の合弁企業（以下、「NUBIA」という。）が担っている。日本での空港運営のノウハウを活用した NUBIA による新空港運営が、2024 年には英国の SKYTRAX 社（空港の施設やサービスなどの水準を評価する第三者評価機関）から同国初の「４スターエアポート」（ロンドン・ヒースロー空港や関西国際空港等と同等のレベル）を獲得し、世界標準を超える設備の品質・サービスレベルを提供していると認められた。新空港は本邦技術および高レベルのサービスを提供していることが、同国国民のみならず同国を訪れる国々からの空港利用者へも目に見える形で伝わる日モ協力の象徴となっており、現在の品質・サービスレベルを維持し、更なる利便性の向上のため、拡張についても我が国が実施することが同国への継続的な支援の表れに直結し、その外交的意義は高い。

(２) 当該国における運輸交通セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

同国では、1957 年に建設された旧チンギスハーン国際空港（現ボヤント・オハー空港、以下「旧空港」という。）が年々老朽化し、また南東の 2 方面を山に囲まれ、離発着の向きが限定的な立地上の制約から遅延や欠航が頻発していた。このため、同国政府は、離発着の制約を受けにくい立地に、新空港を円借款を活用して建設（総事業費 757 億円、うち、円借款 657 億円（2008 年第一期、2015 年第二期承諾））。

新空港は 2021 年 7 月に開港し、その後旅客数・貨物量は、2023 年時点でコロナ禍以前の 2019 年度水準を上回る勢いで拡大傾向にある。旅客数は、2007 年に JBIC（当時）が実施した調査では、開港後 5 年目（計画では 2019 年）に 165 万人と予想していたが、実際には開港 2 年目（2023 年）に 175 万人に到達した。さらに同国政府は 2023 年～2025 年を「モンゴル訪問の年」として位置づけ、査証免除国や就航地の拡大等、積極的な観光誘致策を実施している。今後更なる観光需要の増加や旅行産業の伸長が見込まれ、2039 年には旅客が 512 万人に達すると予測されている（JICA、チンギスハーン国際空港に係る情報収集・確認調査）。また貨物について、同国政府は航空輸送の自由化を推進している。中東向けのハラル肉輸出用チャーター便増加により、2024 年 9 月時点で貨物量は昨年同月比 2.8 倍と増加しており、貨物取扱容量の拡充も求められている。すでに現施設では手狭であるとの報道も現地ではなされており、2024 年 9 月の日モ首脳会談において新空港拡張に対する支援が要請された。本計画は同国唯一の国際空港の施設拡張により、航空旅客及び貨物輸送の将来的な需要増加に対応することで混雑緩和及び更なる利便性の向上を図り、もって同国の経済発展に寄与するもの。

３．計画概要

＊協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容：

ア） 滑走路（3,600m から 4,400m に延伸）、誘導路、エプロン整備

イ） ターミナルビル、駐車場整備

ウ） 関連施設整備・機材整備

エ） コンサルティング・サービス（設計、施工監理等）

② 期待される開発効果：

年間旅客数の増加（175 万人→435 万人）、年間航空機発着回数の増加（14,901 回→31,719 回）、貨物取扱量の増加（8,575 トン→17,706 トン）により、同国唯一の国際空港の安全性・信頼性向上、及び外国投資増大や航空輸送強化に伴う同国社会・経済の活性化に寄与する。

③ 借入人：モンゴル政府（The Government of Mongolia）

④ 計画実施機関／実施体制：道路・運輸省（Ministry of Road and Transport）、民間航空庁（Civil Aviation Authority of Mongolia）

⑤ 他機関との連携・役割分担：なし

⑥ 運営／維持管理体制：New Ulaanbaatar International Airport LLC（NUBIA）

(2) その他特記事項：

- 環境社会配慮カテゴリ分類：A
- ジェンダー分類： GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）
- 同国は 2024 年 7 月に中進国となっており、今後本邦技術活用条件（STEP）適用不可となる可能性がある事に留意するとともに、本邦技術の優位性について協力準備調査で確認する。

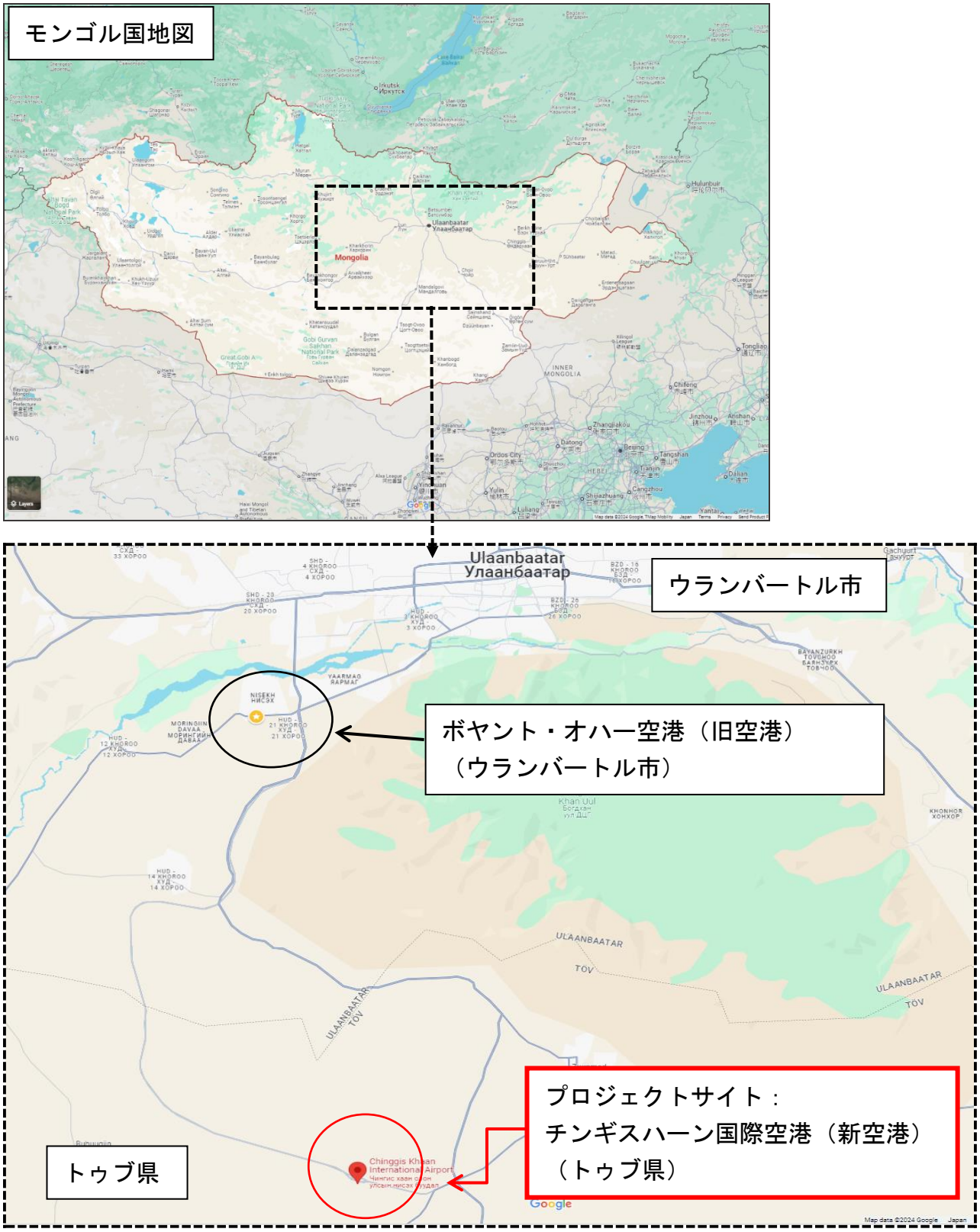
４．過去の類似案件の教訓と本計画への適用

ベトナム社会主義共和国向け円借款「ノイバイ国際空港第二旅客ターミナルビル建設事業(I)～(III)」（評価年度 2019 年）の評価等では、事業実施中に行われた政府間での綿密な協議をベースに、インフラの整備の成果を高めるため、附帯する技術協力での戦略的な準備を行ったことが、財務面でも利便性でも競争力を上げ、空港ランキングの上昇にも繋がったことが教訓として示されている。本計画でも、空港は NUBIA を中心に運営され、混雑解消に向け同国政府、NUBIA またエアライン各社の対話の場が設けられ、綿密な協議が行われつつある一方、今後空港の施設規模拡大に合わせ、各ステークホルダーのインプットが適時適切に行われるよう、円借款のコンサルティング・サービスにより支援を検討予定。詳細は協力準備調査を通じて確認する。

以　上

［別添資料］地図「チンギスハーン国際空港拡張計画」
［別添資料］写真「チンギスハーン国際空港拡張計画」

地図「チンギスハーン国際空港拡張計画」



出典：Google Maps（地図データ©2024 Google、TMAP Mobility）より JICA 作成

写真「チンギスハーン国際空港拡張計画」

 チェックインカウンター（2F）	 国際線搭乗待合室
 到着ロビー	 滑走路
 エプロン	 誘導路

 空港到着からチェックインカウンターまでに所要30分 （フランクフルト、イスタンブール、香港、東京便が同じような時間帯に出発）	 セキュリティゲート前の渋滞（国際線方向だけでなく、旧国内線方向からも行列） セキュリティを通過して、Duty Free Zoneに行くまでに所要30分。
 国際線搭乗ゲートから伸びる列	 国際線搭乗ゲート付近

出典：チンギスハーン国際空港に係る情報収集・確認調査、JICA